

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	田邊 暁正 ( たなべ あきまさ )
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学部 4 年
発表年月 または事業開催年月	2026 年 3 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本発達心理学学会第 37 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載, 共同発表者の氏名も記載すること)	田邊暁正, 大森幹真
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	ASD 児におけるリズム弁別の正確さによるリズム表出の差異
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合, 「概要・成果」を記載した上で, URL を末尾に記してください。また, 抄録 PDF は別途ご提出ください。なお, 抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><b>【序論・目的】</b>          自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder : ASD) 児は時間処理やリズム知覚において特有の困難を示すことが知られており, リズム課題は言語能力に依存せずに ASD の神経認知的特性を評価できる手法として注目されている。本研究では, リズム弁別課題を用いて ASD リスク児のテンポ維持特性を検討し, 早期支援における非言語的評価指標につながるかを検討することを目的とした。</p> <p><b>【方法】</b>  <u>参加者</u> : 5~18 歳の児童 21 名が研究に参加し, 研究参加前に保護者と本人に文書及び口頭による説明を行い, 書面同意を得た上で研究を開始した。2 名は課題遂行が困難であったため分析から除外した。  <u>装置</u> : 入力装置には ITPROTECH 社製マクロキーボードを使用し, 反応は「解析用テンポくん」を用いて BPM (Beats Per Minute) として記録した。  <u>刺激</u> : リズム弁別課題では, 異なるテンポ刺激を 2 種類提示し, どちらが速いかを判断させた。タッピング課題では, 提示されたリズムと同じ間隔で 8 回キーを押すよう求めた。  <u>手続き</u> : 課題はリズム弁別課題とタッピング課題の 2 種類で構成した。視覚条件 (点滅する丸型光点) と聴覚条件 (電子音) の 2 条件でそれぞれ 80 および 160 拍/分のテンポを用いて 8 回ずつ提示した。  <u>従属変数</u> : タッピングの前半 (1~4 回) と後半 (5~8 回) の平均 BPM を算出後, 提示テンポで標準化した。リズム弁別課題の正答率 50% を基準に, 正答率高群 13 名と正答率低群 6 名の 2 群に分類した。正答率 (高・低) × 条件 (視覚・聴覚) × 区間 (前半・後半) の 3 要因分散分析を行った。</p> <p><b>【結果・考察】</b>          リズム弁別課題の平均正答率は 66% であり, 高群では 76%, 低群では 44% であった [<math>t(17) = 3.97, p &lt; .01</math>]。分散分析の結果, 正答率の主効果が有意であり [<math>F(1, 75) = 9.21, p &lt; .01</math>], 高群は低群に比べ提示テンポに近いタッピングを示した。これらの結果から, リズム弁別能力の高い参加者ほどテンポ維持が正確であることを示した。ASD リスク児はこだわり特性からリズム表出のズレの修正が困難であり, その大きさや変容過程が非言語的評価指標になり得る可能性を示した。</p>	

※無断転載禁止